

かかりつけ薬剤師の立場から～地域連携・薬薬連携にお薬手帳の活用を推進しよう～

岡野 泰子 そうごう薬局 新倉敷店

近年、居宅療養管理指導を算定している在宅患者のみならず、外来通院患者の中にも介護認定を受け、ケアマネジャー（以下ケアマネ）を利用している患者が増えてきている。ケアマネから患者情報を得る機会が増えることが期待されたが、肝心の担当ケアマネを薬剤師が把握できていないことがある。また、患者の入院時および退院後の薬物治療を効果的かつ効率的に行うためには、地域での多職種連携が求められている。しかし、ケアマネが医療機関に提出する入院時情報提供書にはかかりつけ薬局記載欄がないために、入院前の服用履歴や退院後にどこの薬局に薬の管理をお願いしたらよいかわからないなど、病院薬剤師・医療ソーシャルワーカーから相談を受けることが多く、シームレスな薬物治療を提供する上でケアマネとかかりつけ薬剤師の連携が課題となっている。

そこで、お薬手帳を他職種との連携ツールとして活用すべく、取り組みを行うこととしたので報告する。

お薬手帳をきっかけとしたケアマネとの連携により、薬学管理に必要な患者の生活背景や院内処方薬などの情報を得ることができた。また、かかりつけ薬剤師に関する情報を得た病院薬剤師から入院前の服用履歴などの問い合わせを受け、情報提供を行うことができた。

入院時から適切な情報提供がなされれば、病院やケアマネとの連携が密になり、退院後もシームレスな医療の提供が可能となる。かかりつけ薬剤師が多職種間で活用できる体制づくりに寄与することで、お薬手帳は地域で支える医療に必要なツールに育つと考える。フロアからの意見を交えた総合討論を通して、地域連携・薬薬連携に向けたお薬手帳のさらなる活用の推進について論じたい。